# 中島裕さん

**1926（大正15）年5月12日生まれ**
**当時の本籍地　静岡県**
**陸軍　航空兵**
**陸軍特別幹部候補生（1期生）**
**第39飛行場大隊**
**最終階級　伍長**
**満州、タイシェット**

●1944（昭和19）年4月20日　陸軍特別幹部候補生に志願し、千葉県柏東部第102部隊第4航空教育隊へ
●1945（昭和20）年7月　第39飛行場大隊東京城分遣隊（9164部隊）　航空士官学校に行った兄と同じ部隊に

---

**●1945（昭和20）年8月16日～17日　戦車群に取り囲まれ、武装解除**

敦化（とんか）－沙河沿間の山中で電信柱を砲にした様な戦車群と軽機関銃を持った歩兵にうわっと取り囲まれる。こちらは99式歩兵銃と手榴弾2個のみ。中に手榴弾を投げた兵隊がいたが、戦車の間の歩兵がマンドリン（機関銃）で撃ち、即死した。あっという間に武装解除され、敦化に収容。

**●1945（昭和20）年10月12日～　帰国のためと偽られ牡丹江へ1日50キロ、5日間の行軍**

満州の水は硬水でそのまま飲んではいけないと言われていたが、兵隊の水筒は600ccしか入らない。死んでもいいと思って川の水を飲んだり、民家の瓶の中の水をぼうふらが湧いていても飲んだりした。

●1945（昭和20）年10月　牡丹江郊外の掖河（えきか）の幕舎に

掖河駅で満州中からかき集められたありとあらゆる物を貨車に積み込んだ。日本の復興には出来るだけ沢山積めと言われた。食糧、木材、ガラス、トタン板、ゴム製品。積み終わると貨車は出発し、次の貨車が来る。

掖河は激戦地で、タコ壺に身体を半分乗り出したまま戦死している日本兵が、服の外は白骨化しているが、服の中は蛆虫が湧いたまま。

●1945（昭和20）年11月3日　貨物列車に乗せられ北上

3日目ぐらいになって北に行きだしたのが分かった。だんだん寒くもなり、日照時間も短くなる。鍵がかけられていたが、ある日突然鍵がはずされ一斉に飛び出して排便をする。先に通った人たちのあとが残っている。

---

**●1945（昭和20）年11月18日　イルクーツク州タイシェット地区46キロ地点第5収容所に入所**

翌朝所長から「指示に従って仕事をしなさい、絶対に逃亡は出来ない」。

伐採作業、積載作業にあたる。作業場は収容所から3キロほど歩いたところ。カンボーイ（監視兵）が鞭を振り振り蹴飛ばしたり、銃床で蹴り上げ現場に急がせる。

作業は-40度までさせられた。丸太の自動車積載は、機械も無いのでロープで人力で積んでいく。冬になって凍ってくると氷柱と同じ、丸太が落ちるのと一緒に落ちる事故にあったが隙間に身体が滑り込んでかすり傷で済んだ。

●朝ご飯は黒パン150g と飯盒の中盒にスープを軽く1杯、小さな青いトマトが入った塩スープ。昼は中盒のカーシャ（粥、コーリャンや粟や稗の雑炊）。朝、昼の分を食べて仕舞うので、冬は松の皮の下の薄皮を煮ると真っ黒な昆布の佃煮のような感じ、岩塩で味付けするがパンか何かを犠牲にしないと岩塩も手に入らない。

夏はいっぺんに花が咲いて草が生えて、食べて良いか悪いか分からないような葉っぱを炊いて食べる。もう少しするときのこが出てくる。雑嚢一杯のきのこを飯盒で炊いて食べる、色んな色のもある、口に入って腹一杯になって死ぬのならそれでいいじゃないかと。白樺の木の樹脂を集め、湧かすと甘い液。

●死亡者の8割が1946年の1～3月に亡くなった、夜喋っていた人が声がしなくなるから見ると、飯盒と箸を持ったまま死んでいる。朝起床になると隣が起きない、声をかけると死んでいる。栄養失調はこういうふうに死ぬのか、あるいは楽かもしれないな。私も色々考えたけれど、「俺は絶対死なないぞ、絶対負けないぞ」と。

●当時の埋葬は、死体がカチンカチンに凍っているので保管小屋にマグロが積んであるようにどんどん入れ、どんどん埋める。1～2月は土が硬くて掘れないので、山のように薪をつんで燃え尽きた頃20センチぐらい掘れる。また薪を積んで20センチぐらい掘る、それを1日3回ぐらい繰り返し、一つの穴に3体ぐらいいっぺんに入れて掘った雪と土の混ざったのをかけるので、春になると骨が出てくる。

●1947（昭和22）年12月　伐採作業中負傷　倒木の下敷きになり右足首を骨折、タイシェット第3病院に入院
●1948（昭和23）年6月14日　英彦丸で復員　　（取材日：2005年9月23日）